

SCG081-05

会場:国際会議室

時間: 5月24日14:40-14:55

## 強震動研究

### Study on strong ground motions

岩田 知孝<sup>1\*</sup>

Tomotaka Iwata<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup>京都大学防災研究所

<sup>1</sup>DPRI, Kyoto University

1995年兵庫県南部地震による強震動の特徴を解明が震源モデル及び地下構造モデルに基づいて行われることにより、ディレクティブパルスといった震源近傍強震動の特徴やエッジ効果による地震動の増幅特性に関係する重要な知見が得られた。この地震を契機にした全国均一密度の強震観測網K-NET, KiK-net, 気象庁震度計観測網により、全国を網羅する強震観測網が整備され、地震発生時には貴重な地震動記録が観測され、その特性の解明のための強震動研究が行われている。また2003年十勝沖地震では、勇払平野で観測された長周期地震動の生成・伝播の様子がこの強震観測網で明らかになり、震源モデルと地下構造モデルにもとづいて解明された。

兵庫県南部地震から15年の間、この強震観測網を用いた強震動研究は多岐に亘っており、それ以前とは比べものにならないほどの貴重なデータを提供している。地震被害という観点においては、阪神・淡路大震災ほどの甚大な地震災害を引き起こす地震は起きていないが、都市が強い揺れに見舞われる可能性は下がったわけではなく、21世紀には必ず起きる南海トラフでの巨大地震の発生確率は着実に上がっている。また都市圏は、建物自体の強度は平均的には向上してきているが、複雑化が進むことによって脆弱性が増している。強い揺れと社会のかけ算で表される地震のリスクをより精度よく見積もるために、強震動研究の重要性はますます高まっている。

キーワード:強震動,兵庫県南部地震,強震動予測

Keywords: strong ground motions, Hyogo-Ken Nanbu earthquake, strong motion prediction